



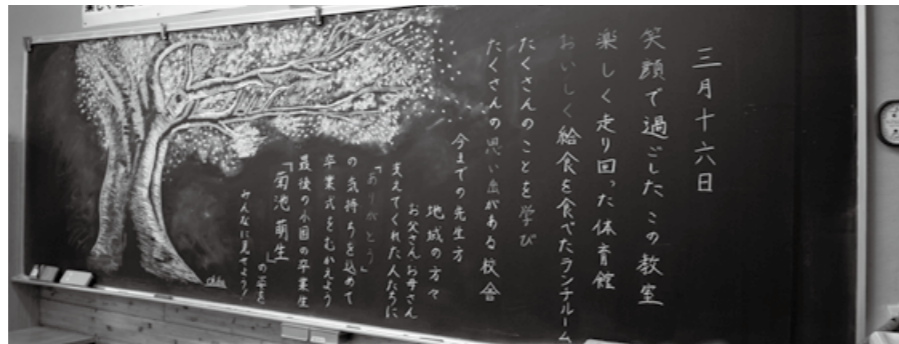
最後の卒業式。一緒に記念撮影



全校劇「吉四六さんの人助け」



春の山体験



卒業式当日の黒板には担任の千葉弘助先生のメッセージ



小国小学校
花輪 直之校長

小国小学校は初めて校長となって赴任した学校。子どもたちは本当に良い子で、地域と歴代の職員が築き上げた一体感がすばらしい学校です。長く続いてほしいという思いはありましたが、最後の校長として、役割をしっかりとこなせるように努めました。当校に関係したすべての人に深く感謝申し上げます。



佐藤良子先生と教室でピース



全校児童3人での授業

最後の卒業式

3月16日、小国小学校最後の卒業式が行われました。式典では、卒業生の菊池萌生さんに卒業証書を授与。花輪校長が「小国小学校で身につけた自信と誇りを持ち、最後の卒業生として活躍することを期待します」と式辞を述べました。「門出の言葉」では菊池萌生さんが「忘れられない思い出を胸に、私は新しい学び舎へ歩みだします。どんな時も支えてくれるお母さんは私の大きな目標です。お父さんのようにたくさんの方々に教えられる人になりたいです」とみんなへの感謝や明日への希望を発表しました。「さようなら大好きな小国

小学校、さようなら」と涙ながらに最後の言葉を話すと、会場からは大きな拍手が贈られました。式典後、みんなに見送られ菊池さんは大好きな小学校を旅立ちました。

心からの拍手を

小国地域の住民が組織した「小国小学校閉校記念事業実行委員会」（橋修実行委員長）の閉校記念誌部会では、「蛍雪ながき年月を」と題した閉校記念誌を2月28日に発行。記念誌には生き生きと輝く児童たちの姿や、国民学校時代、小中学校併設時代のころの写真も掲載されています。また、尋常小学校に通った人や小中学校併設時代に小学生だった人などを発言者に迎えた座談会、在校児童の座談会、最後の職員の座談会なども掲載されています。

創立以来、小国小学校を巣立った卒業生はおよそ千人。市内はもとより県内外、海外などで活躍する多くの人材を輩出してきました。同校の刻んできた軌跡に心からの拍手を送ります。



すずらん訪問

～感謝・いたわり・奉仕の心～

中学校から受け継がれてきた活動は多くありますが、小国小学校を語る上で欠かせないのが「すずらん訪問」です。すずらん訪問は、さまざまな支援をいただいた「感謝の気持ち」を形にしてお返ししようとして、昭和40年に中学校生徒会の取り組みとしてスタート。平成2年3月の中学校閉校にともない小学校に受け継がれ、その後も毎年実施されてきました。

昭和44年に「小国大火」が発生し、小国地区は大きな被害を受けました。このときに全国から支援が届き、この温かい心を忘れないと、すずらん訪問の精神「感謝・いたわり・奉仕」の心が地域にも深く浸透しました。

はじまりから実に52回、半世紀以上にわたり続けられてきたすずらん訪問は同校の代名詞になるほどでした。

毎年5月、小国の野山に咲くスズランを摘み、体育館で花束にして、市内の福祉施設や病院、公共施設などを訪問。花束にメッセージカードを添えて、いたわりの言葉とともに一人一人に手渡ししました。久慈病院や愛山荘では小国の伝統芸能「大黒舞」や「三番叟」などを披露。すずらん訪問が始まった頃は久慈病院1カ所だけの訪問だったのですが、平成29年度は市内18カ所を訪問しています。



久慈病院にすずらん訪問

卒業式後の在校生 インタビュー



砂川 大閣くん
(2年生)

今年で最後の卒業式なので昨日からドキドキしていました。でも今朝はちゃんと早く起きることができました。式の間はすごく緊張したけれど、間違わずにきちんとできてよかったです。山形小にいたら友達をいっぱい作りたい！楽しみです。



加藤 美季さん
(5年生)

卒業式では萌生ちゃんへの「門出の言葉」を気持ちを込めて言えました。「ありがとうございます」と「頑張ってください」をしっかり伝えることができました。山形小にいたらマーチングバンドをするのがとても楽しみです。友達と仲良くしたいです。



菊池 萌生さん
(6年生)

ちょっと寂しいけれど、みんなに感謝の気持ちを伝えられてよかったです。中学校では勉強や部活動を頑張りたいです。6年間過ごした小学校がなくなることは悲しいけれど、私が最後の卒業生だったので、閉校までしっかりと過ごそうと思い、頑張りました。